

第13回中野区ゆかりの著作者紹介

# ゆかり展示回顧録

～中野の偉人・文化人ハイライト～



展示期間：平成28年10月1日（土）～10月31日（月）

中野区立中央図書館

# もくじ

はじめに .....	1
これまでのゆかり展示紹介 .....	2
第1回『ゾルゲ事件捜査官・大橋秀雄氏』 .....	2
第2回『写真家 田沼武能氏』 .....	4
第3回『国立中野療養所と江古田の作家たち』 .....	6
第4回『現代日本の建築家 伊東豊雄と長谷川逸子』 .....	8
第5回『生誕150年「不思議博士・井上円了」』 .....	10
第6回『作家・阪田寛夫～童謡「サっちゃん」の詩人・小説家～』 .....	12
第7回『収監の作家・文化人－中野刑務所1910～1983－』 .....	14
第8回『棟方志功と中野 一大和し美しー』 .....	18
第9回『谷戸に文化村があったころ 探偵作家松本泰・松本恵子と文士たち』 .....	20
第10回『巽聖歌と新美南吉－友情と名作を育んだ上高田－』 .....	22
第11回『古木鐵太郎の文学游歩』 .....	24
第12回『異彩の作家 香山滋 ～古代・浪漫・奇譚～』 .....	26
中野区ゆかりの人々 .....	28
年表 .....	38
ブックリスト .....	46



## はじめに

中野区立中央図書館では中野のまちに根ざした芸術文化の情報を広く発信するため、中野区にゆかりのある作家や文化人などの作品資料の収集・展示を行なっています。

平成16年より毎年開催している「中野区ゆかりの著作者紹介展示」。今回は『ゆかり展示回顧録 ～中野の偉人・文化人ハイライト～』と題し、全12回分を一挙にご紹介する回顧展を開催致しました。

「ゆかりの人」としてご紹介するのは、明治以降の著名人で、中野区に生まれた人・住んでいる人・住んだことのある人、そして中野区内を活躍の場とした人々です。

私たちが何気なく見ているあの場所は、かつてあの人が暮らした場所かもしれません。私たちがいつも歩いているあの道は、かつてあの人が思索に耽りながら歩いた道かもしれません。過去または現在、私たちは同じまちを歩き交い過ごしています。中野のまちに改めて思いを巡らせながら、本書を楽しんでいただければ幸いです。

参考・地域行政資料コーナーには、特別コレクション『中野区ゆかりの人コーナー』があります。今回ご紹介できなかった中野区ゆかりの人に関する資料も数多くご覧いただけます。こちらにも是非お立ち寄りください。



# これまでのゆかり展示紹介

## 第1回

### 『ゾルゲ事件捜査官・大橋秀雄氏』

展示期間 2004年7月1日（木）～7月14日（水）



手記の直筆原稿や愛用の品、ゾルゲから大橋氏宛ての手紙、内務大臣賞状、大橋氏の著書、ゾルゲ事件に関連する新聞記事や図書を展示した。

おおはし ひでお  
大橋 秀雄

明治 36(1903)年 3 月 15 日～平成 14(2002)年 6 月 1 日

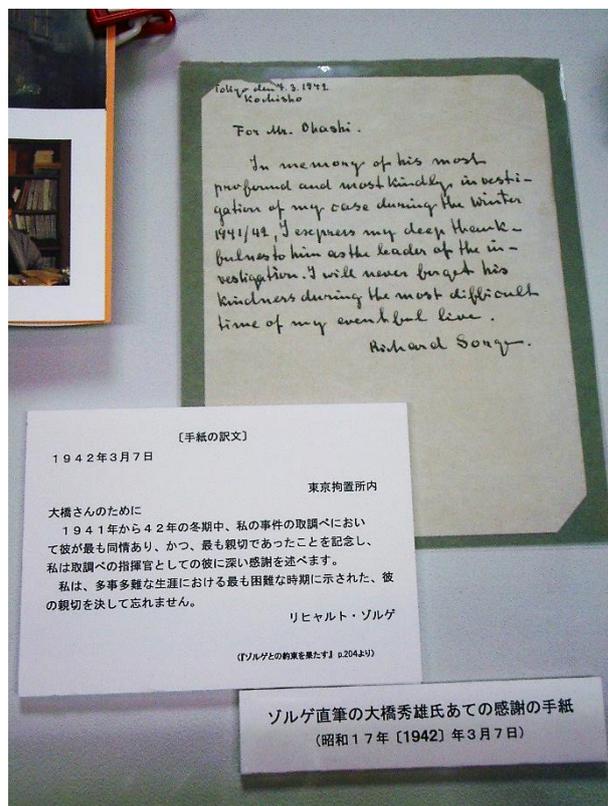
警察官。神奈川県生まれ。昭和 3 年、警視庁巡查となる。以降、昇進を重ね、昭和 10 年に中野警察署特高主任に任命される。

昭和 16 年、ドイツの新聞特派員、リヒアルト・ゾルゲらがスパイ網を組織し、日本軍部の南進情報を旧ソ連に提供したとされるゾルゲ事件が発覚。主犯ゾルゲの取調官に任命され、自供を引き出すことに成功、事件を解決した。この功績を讃えられ、昭和 18 年内務大臣功労記賞を受賞。同年、警部に昇進、31 年に退官するまでに警視正まで登りつめた。戦前より亡くなるまで中野区中央 4 丁目に居住。著書に『ある警察官の記録』がある。享年 99。

## 【エピソード】

主犯ゾルゲは東京拘置所に勾留中、容疑を否認するばかりでなく、逆に取調官を脅す発言もしていた。大橋が冷静に、スパイ活動の証拠となる電文原稿を持ち出して説明を求めると、ゾルゲは答えに詰まったという。大橋がすかさず、「仲間の自供をすでに得ている」こと、「事件は秘密に取り扱われているが、状況次第ではドイツ側に事件の内容を通告することになる旨」を伝えると、事件の公表を望んでいないゾルゲは、初めてスパイ活動を認める発言をした。

翌日、検事による取調が行われたが、興奮した様子のゾルゲが「俺は日本の警察に負けた」と自白したという。



## 第2回 『写真家 田沼武能氏』

展示期間 2005年10月29日(土)～11月13日(日)



写真集などの著作を中心に、関連資料を展示。冊子のインタビューでは、中野に住む魅力をこう答えている。「神田川沿いに公園があり、静かで、また、交通が便利なことです。近隣に写真の仲間が沢山いることも愛着を感じる理由の一つです」

たぬま たけよし  
**田沼 武能**

昭和4(1929)年2月18日～現在

写真家。東京浅草生まれ。実家は写真館。彫刻や建築に興味を持っていたが進学を諦め、写真家を目指す。昭和24年サン・ニュース・フォトス社に入社して木村伊兵衛に師事。31年「週刊新潮」と契約。40年には写真家にとって最高の舞台である米国のタイム・ライフ社の契約写真家になる。これを機に世界を回り、報道写真を撮り続ける。『ライフ』が休刊し、フリーランスとして活動。「人間大好き」人間として、瞬間を捉える写真を精力的にとり続け、紫綬褒章、文化功労者などにも顕彰されている。写真集に『すばらしい子供たち』『時代を刻んだ貌』『武蔵野』など。

## 【エピソード】

昭和31年東京で開催された「ザ・ファミリー・オブ・マン＝人間家族」という写真展に強い感銘を受け、見る人に感動を与えることができる写真を撮りたいと思う。タイム・ライフ社の契約写真家時代、休暇を使って足をのばしたブローニュの森で、楽しそうに遊ぶ子ども達と出会いシャッターを切る。その時に子供を主人公にした写真をライフワークにしようと閃き、名も無い子どもから文豪まで、多くの人物を撮影している。文豪で唯一写真を撮らせてくれなかったのは正宗白鳥。まさむねはくちょう「写せなかった傑作」として、田沼の脳裏に焼きついている。



### 第3回 『国立中野療養所と江古田の作家たち』

展示期間 2006年10月28日(土)～11月21日(火)



当時の江古田・療養所を知る写真や資料の他、江古田に住んだ作家の関連資料を展示。ガラスケースの中には、跡地から近代遺物として発掘された薬瓶3点（それぞれ「日本赤十字社」「ロート目薬」「東京市療養所」と刻印されている）、牛乳瓶1点を展示。

こくりつなかのりょうようじょ  
国立中野療養所

大正9年、貧困で治療が困難な肺結核患者のため、当時の東京府豊多摩郡野方村江古田に前身「東京市療養所」が開所。昭和22年に厚生省の所管となり、国立中野療養所となった。平成5年、新宿区の国際医療センターへ統合され、閉所となった。

昭和13年には、詩人・<sup>たちはらみちぞう</sup>立原道造が入所。昭和20年代には思想家・評論家の<sup>まるやまさお</sup>丸山眞男、昭和49年には専修大学教授の<sup>ゆきやまよしまさ</sup>雪山慶正が同病院に入所している。

跡地は平成19年より「東京総合保健福祉センター江古田の森」及び「江古田の森公園」となっている。公園内に植えられたハナミズキは、日米親善の印として米国から贈られたものの子孫。その原木は、かつて療養所に隣接してあった<sup>のがたびょうほ</sup>野方苗圃、また日比谷公園などで栽培されていた。

結核が当時は不治の伝染病であったため、療養所建設に対する村人たちの反発は相当なもので、反対運動が起こった。建設予定地の買収がなされた段階では、「村民の利益の為」「別荘を造る」等と信じさせられていたという記録もある。

開院当初の療養所は、治療院というより隔離所だった。通りがかる者は「うつるとこわい」と鼻と口をふさいで走り抜け、近隣農民は焼き討ちを企てたりしたという。



大正15年 東京市療養所の新館  
写真：中野区提供

## 第4回 『現代日本の建築家 伊東豊雄と長谷川逸子』

展示期間 2007年10月27日(土)~11月29日(木)



ガラスケースには、逸子の作品からはイギリスのカーディフ・ベイ・オペラハウス案(コンペ最終まで残りながら、実現されなかった案)、豊雄の作品からは杉並区立杉並芸術会館の建築模型を展示した。杉並区立杉並芸術会館は、展示当時はまだ竣工されておらず、工事中だった。

冊子には両者のインタビューや、建造物の写真を豊富に掲載している。

いとう とよお  
伊東 豊雄

昭和 16(1941)年 6 月 1 日～現在

建築家。京城(現ソウル)で誕生。幼少期は信州下諏訪で育つ。学生時代、<sup>きくたけきよりの</sup>菊竹清訓建築設計事務所でアルバイトをした時に、建築の面白さに目覚め、同事務所に就職。一生の中で一番働いたという 4 年間で過ごす。建築士として独立したのち、昭和 45 年から 55 年にかけて「中野本町の家」、日本建築学会賞受賞の自宅「シルバーハット」(どちらも中野区)などの住宅建築で注目される。

東日本大震災直後、「みんなの家」プロジェクトを手がける。平成 25 年には「建築界のノーベル賞」と言われるプリツカー賞を受賞。翌年には新国立競技場のデザインコンペで B 案を提出した。愛媛県には今治市伊東豊雄建築ミュージアムがある。

はせがわ いつこ  
長谷川 逸子

昭和 16(1941)年 12 月 1 日～現在

建築家。静岡県焼津市で誕生。幼い頃から自然に触れ合い、運動や勉学のほか、絵を得意とした。学生するとき、父親の会社で見た船の設計図に魅了され、そこから建築にも興味をもつ。関東学院大学、東京工業大学を経て、<sup>きくたけきよりの</sup>菊竹清訓建築設計事務所に就職。その後<sup>しのはらかずお</sup>篠原一男研究室を経て独立。現在、住宅・公共建築の設計を中心に活動中。平成 13 年には「新潟市民芸術文化館及び白山公園」が第 42 回建築業協会賞に入選するなど、数々の賞を受賞し、精力的に建築活動を行う一方、早稲田大学、東京工業大学、九州大学などの非常勤講師、米国ハーバード大学の客員教授、関東学院大学大学院客員教授などに就任した。

## 【エピソード】

両氏は昭和 16 年の同年生まれ。独立する前は同じ<sup>きくたけきよりの</sup>菊竹清訓建築設計事務所に所属していた。逸子は、平成 2 年の藤沢市湘南台文化センターのコンペティションで、215 倍の倍率を勝ち抜いて最優秀賞をとった。大型の公共建設のコンペで女性が最優秀賞をとったのは、日本では逸子がはじめて。豊雄にとって一番印象に残っている逸子の建築は、この湘南台文化センターだという。実は豊雄もこのコンペに参加しており、逸子に敗れている。

## 第5回 『生誕150年「不思議博士・井上円了」』

展示期間 2008年11月1日(土)~27日(木)

特別展示 11月8日(土)~14日(金) 講演 11月8日(土)



東洋大学や、なかの ZERO の協力を得て、著作展の他に講演会と特別展を開催した。ガラスケースには関係機関から借りた原著などを展示。また特別展ではなかの ZERO を借りて、煙草入れやキセルなどの遺品も展示した。東洋大学井上円了記念学術センター(現井上円了研究センター)専任研究員の三浦節夫による講演『不思議博士・井上円了の冒険』を中央図書館のセミナールームで行なった。

いのうえ えんりょう  
井上 円了

安政 5(1858)年 2 月 4 日～大正 8(1919)年 6 月 6 日

越後国長岡藩領内(現在の新潟県内)で、慈光寺住職の長男として誕生。10 歳の時に戊辰戦争を経験、明治維新を迎える。幼名を岸丸といったが、16 歳の頃に得度して円了と名乗った。仏教の活性化を図る目的と、「哲学こそ真理を追究する学問である」という考えを基に、明治 20 年東京・本郷に哲学館を創設(現、東洋大学)同 37 年和田山(現、中野区)に哲学堂を建設した。仏教と東洋哲学の啓蒙に努める一方、「人々が妖怪を妄信して正しい道理を知らない」現状に妖怪学の必要性を感じ、妖怪研究会を結成。地方公演などで迷信の打破に勤めた。大正 8 年脳溢血で倒れ死去。享年 61。

## 【エピソード】

「妖怪」の名付け親。異名は妖怪博士。「妖怪」という言葉を学術的に使った最初の人物。妖怪研究の最初では「不思議」という言葉で記述していたが、『妖怪学講義』から正式に「妖怪」という言葉を用いる。「妖怪」を科学的に考えるというやり方は、同時代に生きた民俗学者の柳田國男から批判を受けている。



## 第6回

### 『作家・阪田寛夫 ～童謡「サッチャン」の詩人・小説家～』

展示期間 2009年9月26日(土)～10月29日(木)



ガラスケースには小説『ロミオの父』の直筆原稿を始め、作品が掲載された雑誌や著書、本人が愛用していたメガネ、時計、入れ歯入れ(「イルカ、イレバ、イレロ」と備忘メモが付いている)が展示された。壁には写真が多数掲示され、児童文学賞授賞式の様子、鷺宮の自宅前で家族と撮ったものなどがあった。

さかたひろお  
**阪田寛夫**

大正 14(1925)年 10 月 18 日～平成 17(2005)年 3 月 22 日

小説家・詩人。大阪府生まれ。東京大学文学部を卒業後、朝日放送に入社。放送劇や童謡を作る仕事に就く。昭和 33 年に鷺宮の団地に転居、亡くなるまで過ごした。

昭和 34 年、従兄で作曲家の<sup>おおなかめぐみ</sup>大中 恩の依頼で、初めて作詞をした童謡が「サっちゃん」であった。昭和 40 年、中野区立上高田小学校の校歌を作詞。作品は他に「おなかのへるうた」「うたえバンバン」などがある。詩人、まど・みちおと交流があり、『まどさんとさかたさんのことばあそび』などは二人の共著。平成 23 年『阪田寛夫全詩集』『きつねうどん』が出版された。平成 17 年 3 月 22 日、肺炎のため逝去。享年 79。

## 【エピソード】

平成 23 年、阪田の遺品の中から「サっちゃん」の直筆草稿が見つかった。「自分のことサっちゃんって呼ぶんだよ」の部分が「呼ぶの」となっている。草稿は母校・帝塚山学院小学校に寄贈されている。「サっちゃん」創作時、阪田は鷺宮の団地に住んでいたが、同じ団地に小説家・阿川弘之一家が住んでいた。娘の佐和子は、「サっちゃんのモデルは自分だと思いついていた」と思い出を語っている。(朝日新聞 平成 25 年 7 月 14 日 朝刊)

## 第7回

# 『収監の作家・文化人 —中野刑務所 1910～1983—』

展示期間 2010年10月30日(土)～11月25日(木)



正面（表門及び時計台のある事務棟）

写真：中野区提供

ガラスケースの中には矯正図書館から借り受けた『落成記念』（豊多摩刑務所/編）や、『<sup>ごとうけいじ</sup>後藤慶二氏遺稿』といった凶書、雑誌が展示された。壁には十字舎房や表門の外観写真や、刑務所付近の空撮写真（昭和21年・昭和37年）を展示した。

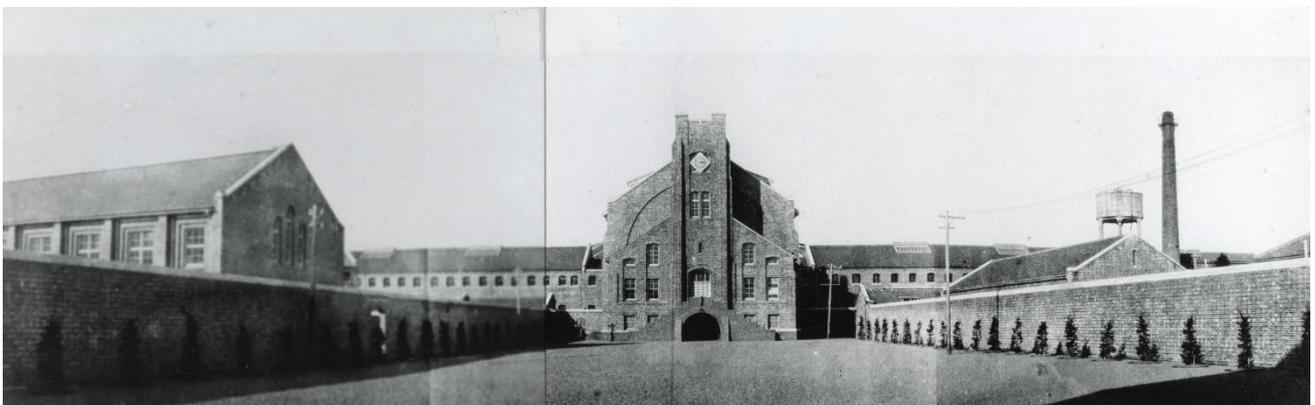
なかのけいむしよ  
中野刑務所

平和の森公園の敷地にあった中野刑務所の歴史は、江戸時代の「小伝馬町牢屋敷」に端を発する。市ヶ谷より移転してきたのが明治 43 年。それから昭和 58 年までの 73 年もの間、首都圏における矯正の要所であった。豊多摩監獄、豊多摩刑務所を経て、終戦後はGHQに接収されて連合軍の拘禁所となり、接収が解除された昭和 32 年には中野刑務所と改称された。

刑務所の建物は総赤レンガ造りで、最も特徴的な「十字舎房」は真上から見ると十文字になっている。大正の名建築と言われたが、現在では解体され、赤レンガの表門を残すのみとなっている。昭和 50 年、法務大臣が中野刑務所廃止を決定。昭和 58 年、廃庁。

日本政府は戦前、革命運動を取り締まる「治安維持法」に基づいて、特に日本共産党員や日本共産党に協力した者を弾圧していた。昭和 3 年と昭 4 年に全国の共産党員が一斉検挙される大弾圧が起きるが、その後も検挙される者が後を絶たなかった。そのため、戦前の刑務所には多くの思想犯が収監されていた。

中野刑務所には、河上肇（経済学者）、三木清（哲学者）、小林多喜二（作家）、壺井繁治（詩人）らが収監されているが、いずれも治安維持法違反によるものであった。



豊多摩監獄落成

写真：中野区提供



## 中野刑務所に収監された人々



かわかみ はじめ  
**河上 肇**

明治12(1879)年10月20日～昭和21(1946)年1月30日

経済学者・思想家。山口県生まれ。東京帝大の農政学の講師を務める。マルクスの『資金と資本』を翻訳。昭和7年日本共産党に入党。当時、治安維持法に基づいて革命運動の取り締まりが行われており、日本共産党は弾圧の対象の最たるものだった。共産党入党の翌年、中野区住吉町（現・東中野4丁目）の隠れ家にて検挙。同年1月～6月の5ヶ月の間、豊多摩刑務所に収監された。昭和12年から氷川町（現・東中野1丁目）に3年ほど住んだ。当時の状況は『自叙伝』、妻・河上秀が綴った『留守日記』に詳しい。享年66。

み き きよし  
**三木 清**

明治30(1897)年1月5日～昭和20(1945)年9月26日

哲学者・評論家・思想家。兵庫県生まれ。大正9年に京都帝大を卒業後、大正11年に独仏に留学。帰国後の昭和2年、法政大学教授となる。昭和3年、『唯物史観と現代の意識』でマルクス主義哲学者として注目を集めた。

昭和5年、当時、中野町大字中野字仲町（現在の中野区中央2丁目）に住んでいたが、共産党に資金を提供した容疑で検挙、豊多摩刑務所に拘留、執行猶予で出所するが、教職を失う。昭和20年、共産党への資金援助で再度検挙。豊多摩刑務所で病に臥し、終戦直後の9月に獄死。墓は上高田の正見寺にある。

こばやし た き じ  
**小林 多喜二**

明治36(1903)年10月13日～昭和8(1933)年2月20日

小説家・左翼運動家。秋田県生まれ。昭和3年『一九二八年三月一五』で、プロレタリア文学の有力な新人として注目された。昭和4年、代表作『蟹工船』を発表。翌年、勤めていた銀行を解雇され、中野区上町（現在の中央4丁目）で下宿生活をした。同年5月、共産党への資金援助で検挙。6月に治安維持法違反と不敬罪に問われ再び逮捕され、豊多摩刑務所に

入獄する。保釈後、日本プロレタリア作家同盟書記長となり、日本共産党に入党。昭和7年、地下活動に入り翌年築地署に検挙され、拷問死。多喜二の作品は、国禁となり終戦まで出版はおろか所持すらも許されなかった。享年29。

つほい しげじ  
**壺井 繁治**

明治30（1897）年10月18日～昭和50（1975）年9月4日

詩人・評論家。香川県生まれ。アナーキスト。大正12年1月に詩誌『赤と黒』を創刊。創刊号の表紙にある「詩とは爆弾である！」などの文句は壺井の手によるもので、民衆詩派に対する批判を示したものであった。全日本無産者芸術連盟（ナップ）に参加、作家同盟の中央委員になり機関誌『戦旗』を発行した。昭和5年治安維持法違反で起訴、豊多摩刑務所に収監された。昭和6年、日本共産党に入党、翌年再び検挙される。昭和9年出獄。昭和37年『詩人会議』を創刊。

妻は児童文学作家の壺井栄。中野区鷺宮に住んでいた。昭和50年中野区共立病院で死去。享年77。



十字舎房 写真：中野区提供

# 第8回 『棟方志功と中野 ー大和し美しー』

展示期間 2011年11月26日(土)~12月28日(水)



壁に棟方が住んだ大和町周辺図などを掲示。都立中央図書館から借用した『大和し美し  
棟方志功板画絵巻』『流離抄板画巻』、詩誌『コギト』など挿絵・装丁を手がけた本などを  
展示した。

むなかた しこう  
棟方 志功

明治 36(1903)年 9 月 5 日～昭和 50(1975)年 9 月 13 日

画家。青森県生まれ。大正 10 年、ゴッホの「ひまわり」に感銘を受け、大正 13 年油絵画家を目指して単身上京。独学で絵を学び、昭和 3 年に帝国美術院展覧会で入選を果たすが、日本の木版画に惹かれて木版画家に転向する。

昭和 2 年～18 年まで中野区大和町に住み、この間に代表作「大和し<sup>うるわ</sup>美し」「釈迦十大弟子」を作成した。戦後世界でも注目されるようになり、昭和 30 年、サンパウロ・ビエンナーレで最高賞、昭和 31 年ヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞を受賞した。昭和 45 年に文化勲章を受章。昭和 50 年、肝臓癌のため逝去。享年 72。

## 【エピソード】

代表作「<sup>ようらく やまと うるわ</sup>瓔珞・大和し美し版画巻」は連作 20 枚からなる大作だ。<sup>さとういちえい たんし</sup>佐藤一英の譚詩・「大和し美し」に感銘を受け、ぜひ版画にしたいと思ったことから生まれた。佐藤の詩と棟方の絵が一体になったことにより、力強さを感じられる作品である。

棟方は版画の上で絵巻物を作ろうと思っていたと言うが、後に制作時をふりかえってこう語っている。「今から見ると字も一字一字心を入れすぎて、どうにもならない<sup>はんが</sup>板画※のくさみがでています。しかし、この一作に於て、これからの道を見つけようと力んでつくった、その気持ちが出たのだと思います」※棟方は「板画」と書いて「はんが」と呼ぶ。



第9回  
『谷戸に文化村があったころ  
探偵作家松本泰・松本恵子と文士たち』

展示期間 2012年12月1日(土)～2013年1月24日(木)



2人の著書を中心に、谷戸の文化村に関わる作家たちの著書を展示。泰が発刊した『秘密探偵雑誌』や『探偵文藝』の表紙が棚を華やかに飾った。

まつもと たい  
松本 泰

明治20(1887)年2月22日～昭和14(1939)年4月19日

探偵作家・翻訳家。本名松本泰三。東京都出身。明治44年、慶応義塾大学在学中『三田文学』に「樹陰」を発表。大正2年、イギリスに遊学。大正5年にいったん帰国するが、半年後再び渡英。帰国後の大正10年、大阪毎日新聞に初の探偵小説である『濃霧』<sup>のうむ</sup>を発表した。

大正12年に<sup>けいうんしゃ</sup>奎運社を立ち上げ、『秘密探偵雑誌』を発行するが、関東大震災で打撃を受ける。雑誌は『探偵文藝』として復活するが、借金が膨らみ昭和2年に奎運社を畳む。昭和14年、癌のため谷戸文化村の自宅にて死去。享年53。

# まつもと 松本 けいこ 恵子

明治 24(1891)年 1 月 8 日～昭和 51(1976)年 11 月 7 日

翻訳家・随筆家。北海道出身。大正 7 年、遊学先のロンドンで泰と出会い結婚。泰が『秘密探偵雑誌』を創刊すると、恵子も中島三郎、黒猫などいくつかの名義で翻訳や編集後記などを載せた。中でも中野圭介名義で発表した『皮剥獄門』<sup>かわはぎごくもん</sup>は、日本初の女性による探偵小説と言われている。

借金返済のために専念した翻訳活動では『若草物語』『あしながおじさん』『小熊のプー公』等がある。泰の死後、昭和 18 年にはキリスト教婦人団体の施設である愛隣館<sup>あいりんかん</sup>を手伝う為、北京に渡った。晩年は横浜へ移り、戦後は妹の和子とともに暮らす。享年 85。

## 【エピソード】

恵子が後年記した本に、泰との関係が伺えるエピソードがある「泰には会心の作は一つもなかったようだ。書くときには熱心に楽しんで書くが、いったんそれが新聞や雑誌に現れると見向きもしないどころか、私が読むのを見ても困った顔をした」そんな泰は、清書を恵子に任せることもあった。「不思議なことに松本泰として書く時の私の筆跡は、泰自身も見分けがつかないほど酷似していた。泰の死後、私のペンから泰の字も消え去った」

### ●谷戸の文化村

松本泰・恵子夫妻が中野町大字中野字谷戸(現・中野一丁目)に建てた、十数件の貸家が集まった一帯。住人には、<sup>はせがわかいたろう</sup>長谷川海太郎、<sup>はせがわりんじろう</sup>長谷川湊次郎の兄弟、<sup>たがわすいほう</sup>田川水泡、<sup>こばやしひでお</sup>小林秀雄らがいた。

<sup>けいこうんしゃ</sup>奎運社での出版活動の資金源にするという目的もあって始めた貸家業だったが、建築の際にトラブルがあり、出版業と合わせて多額の借金を背負うことになった。それでも、ここは泰と恵子が二人で過ごした最後の家であり、たくさんの思い出が残る土地となった。

### ●谷戸の風景

谷戸とは、谷あいの地という意味で、東中野 2 丁目と紅葉山公園の高台に挟まれ、現在は暗渠となった桃園川に向けて開けている地形を表していると思われる。

## 第 10 回 『巽聖歌と新美南吉 ー友情と名作を育んだ上高田ー』

展示期間 2013 年 11 月 30 日(土)～2014 年 1 月 30 日(木)



展示には関係機関から借り受けた書籍を中心に、直筆の色紙なども展示した。新美南吉記念館からキャラクターを借り受け、同記念館のHPで紹介してもらうなどの連携をとった。ふたりの関係に焦点をあてた展示を行った。

にいみ なんきち  
新美 南吉

大正 2(1913)年 7 月 30 日～昭和 18(1943)年 3 月 22 日

作家。本名正八。愛知県知多郡半田町(現半田市)で畳屋の次男(長男は夭折)として誕生した。小学校の頃から文才を見せ、中学時代に鈴木三重吉すずきみ えきちの児童雑誌『赤い鳥』に投稿し入選する。昭和 7 年東京外国語学校(現在の東京外国語大学)入学の為に上京し、中野にあった聖歌の家に同居する。聖歌らの児童雑誌『チチノキ』同人となり作品を発表する。学校を卒業し雑貨貿易協会に勤務するが、持病の悪化により咯血。その後昭和 13 年に郷里の安城高女で教鞭をとり、創作活動を続けたが、同 18 年喉頭結核により死去。享年 29。死後異聖歌らの尽力により『新美南吉全集』などが刊行された。

たつみ せいか  
巽 聖歌

明治 38(1905)年 2 月 12 日～昭和 48(1973)年 4 月 24 日

詩人、歌人、編集者。岩手県の鍛冶屋に生まれる。大正 12 年から『赤い鳥』に童謡を発表する。13 年から 14 年にかけて時事新報社に勤務し、昭和 4 年にアルスに入社。5 年児童雑誌『チチノキ』を創刊。同年南吉が東京外国語学校に入学すると同居、以後親交が続く。15 年には『新児童文化』を創刊、童謡詩人として活躍する。16 年には JOKA ラジオの「うたのおけいこ」で『たきび』が放送され、長く愛される。昭和 35 年『新美南吉童話全集』を刊行、翌年産経児童出版文化賞を受賞する。昭和 48 年心不全のために死去。享年 68。

## 【エピソード】

南吉が大好きな文学を続けるためには、東京外国語学校に合格する必要があった。合格発表の日、南吉は聖歌のいる出版社アルスに来てこう言った「あるんですよ、あるんですよ。番号は私のらしいけれど、見あやまりでないかと心配なんです。いっしょに見に行ってください」。ふたりはアルスから外語学校までの道を走っていったという。この日南吉が聖歌と共に、中野で生活することが決まった。

## 第 11 回 『古木鐵太郎の文学游歩』

展示期間 2014 年 12 月 1 日(月)～2015 年 1 月 29 日(木)



ガラスケースの中には、『<sup>あか</sup>紅いノート』などの自筆原稿や、<sup>いぶせますじ</sup>井伏鱒二らからの愛用の筆立てや手帳の写真などを展示。壁には鐵太郎ゆかりの地の地図、周辺人物の相関図、エピソードをパネルにして展示した。鷺宮文庫開設1周年を記念して、鷺宮図書館でも「古木鐵太郎展～鷺宮を歩いた私小説家～」と題した企画展を同時開催した。

# こき てつたろう 古木 鐵太郎

明治 32(1899)年 7 月 13 日～昭和 29(1954)年 3 月 2 日

小説家。鹿児島県生まれ。大正 9 年、同郷で縁戚でもある山本実彦<sup>やまもとさねひこ</sup>が立ち上げた出版社、改造社に入社。編集者として奔走、受け取ったばかりの志賀直哉<sup>しがなおや</sup>の原稿を誰よりも先に読むことを楽しみにしていた。

大正 12 年、結婚。長男をもうけるが後に離婚。昭和 2 年に改造社を退社し、翌 3 年に小林すゑと再婚。昭和 6 年に赤痢で長男に先立たれる。

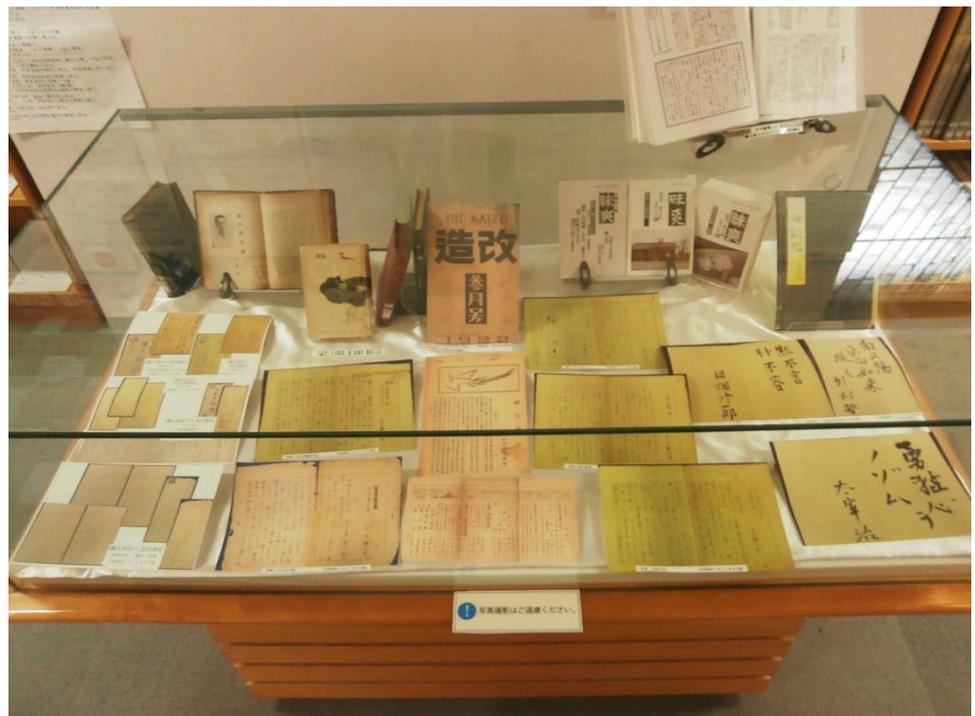
退社後は家の田畑を売って小説を書く日々を送る。鷺宮の自宅は転売されそうになったのを買い戻し、昭和 13 年から 10 年間住んだ。昭和 29 年、肺壞疽<sup>はいえそ</sup>にかかり死去。享年 54。

## 【エピソード】

鐵太郎は改造社時代、志賀直哉<sup>むしやのこうじさねあつ</sup>や武者小路実篤らの作品に影響され、作家を志す。私小説風の作品が多く、自身の子供のことや、自宅のあった野方・鷺宮の風景を描いたものも多い。

「異常なほどの散歩好き」で、作家仲間からは「散歩作家」と呼ばれていた。

小説家・佐藤春夫<sup>さとうはるお</sup>とは親戚関係にあたる。春夫に紹介された仕事を断ったがために絶縁され、二度と顔を合わせることはなかった。



## 第12回 『異彩の作家 香山滋 ～古代・浪漫・奇譚～』

展示期間 2015年11月28日(土)～2016年1月28日(木)



展示は直筆の原稿やハガキなどを中心にガラスケースに展示。ミステリー作家としての香山を中心に展示を行なった。また、ご親族には写真を借り受けたほか、インタビューにも協力して頂き、ご親族から見た香山の思い出を冊子に掲載した。

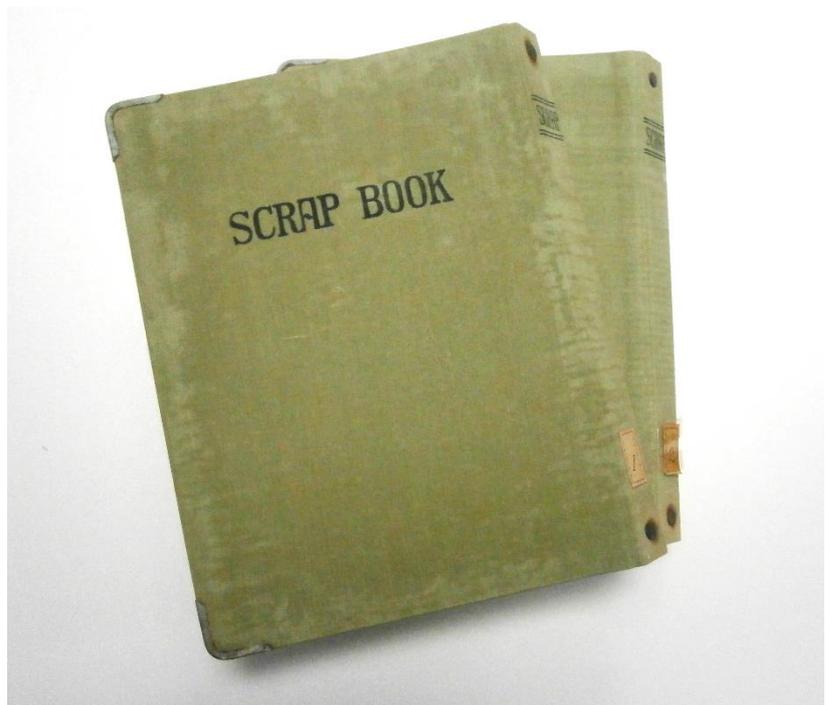
## かやま しげる 香山 滋

明治 37(1904)年 7月 1日～昭和 50(1975)年 2月 7日

小説家。東京都生まれ。本名山田<sup>こうじ</sup>鉦治。昭和 23 年 6 月まで大蔵省に勤務。23 年『海鰻<sup>かいまんそう</sup>荘奇談』で第 1 回探偵作家クラブ新人賞を受賞。幻想・怪奇を取り扱った作品を得意とした。江戸川乱歩が戦後最も目立つ作家として 5 人の名をあげ「戦後派五人男」と名付けたが、香山はそのうちの 1 人として、戦後のミステリー界を牽引していった。映画『ゴジラ』『ゴジラの逆襲』の原作も担当。昭和 50 年心不全により死去。享年 70。作品に『オラン・ペンデクの復讐』『ソロモンの桃』『妖蝶記』などがある。

### 【エピソード】

香山は本名の山田<sup>やまだこうじ</sup>鉦治で機関誌『財政』に多くの短歌を投稿。秀逸や佳作に選ばれている。また、たいへん猫が好きで、通いの猫を含め常時 2～3 匹、多い時で 7 匹の猫を飼っていた。泥だらけの足で乗っかれても「僕の丹前の膝は、いつも泥んこの絶えたことはない」と、すっかり慣れてしまったと語る。そんな愛猫たちと暮らしたのが、中野にある自宅<sup>かいまんそう</sup>「海鰻荘」。自身の作品である『海鰻荘奇談』に由来する。



## 中野区ゆかりの人々

中野区にゆかりのある著名人は、これまで展示でご紹介してきた方々以外にも数多くいらっしゃいます。

その中でも今回は、自身の著作などで中野について語っている方々、長く中野の地で活動されてきた方々を中心にご紹介致します。

### あおい ちゅうじ 青井 忠治

明治 37(1904)年 3 月 30 日～昭和 50(1975)年 8 月 18 日

実業家・丸井の創業者。富山県出身。上京した後、月賦販売商・丸二商会に入社。昭和 6 年 2 月 17 日豊多摩郡中野町桃園通りにあった中野店を譲り受けて独立。当時の記録によると、独立初日の天気は雪で中野の駅前通りの人も少なく、お客は一人も来なかったという。これが創業第一歩であったが、「景気は自らつくるもの」という商売哲学を持ち、丸井を月賦百貨店業界のトップに育てた。

参考文献：『景気は自らつくるもの』鳥羽欽一郎/著，東洋経済新報社，1987 年 など

### きゅうだいめ いりふねてい せんきょう 九代目 入船亭 扇橋

昭和 6(1931)年 5 月 29 日～平成 27(2015)年 7 月 10 日

落語家・俳人。本名橋本光永。はじめ 3 代目桂三木助に弟子入りをし、師の没後は 5 代目柳家小さん門下に移った。昭和 45 年真打ちに昇進し、9 代目入船亭扇橋を襲名。56 年芸術祭賞優秀賞を受賞。古典落語を磨き、「文七元結」「鯉沢」などを得意とした。著書『噺家渡世』の中で「“中” という字に縁がある」とし、東中野に 3 ヶ月住んだことや、後年中野に住宅を購入した事が記されている。

参考文献：『噺家渡世』入船亭扇橋/著，うなぎ書房，2007 年 など

うえだ こういちろう  
**上田 耕一郎**

昭和 2(1927)年 3 月 9 日～平成 20(2008)年 10 月 30 日

政治家。野方小学校の前で駄菓子屋を営む実家で育つ。昭和 21 年一高在学中に共産党に入党。東京大学経済学部を卒業後、「中野新報」の記者として地域活動に専心、中野懇談会を基盤に活動する。「中野懇談会には住民運動の原型がある」と『中野区史』編纂者に高く評価されたと自著で語っている。その後「赤旗」編集局長などを歴任。昭和 49 年より参議院議員に 4 選。メディアにも広く顔を出した。

参考文献：『上田耕一郎対談集』上田耕一郎/著，大月書店，1974 年 など

かざま かん  
**風間 完**

大正 8(1919)年 1 月 19 日～平成 15(2003)年 12 月 27 日

油彩画家。挿絵画家の第一人者として数々の小説の挿絵を手がける。洋画風の柔らかいタッチで、女性像を得意とした。著書では、「私も狭くて窮屈な家を仕事場にしてこの地に長く住んでいる」「私の家は東京中野にあって、二階の窓から新宿西口の高層ビルがよく見える」など、中野にある自宅について触れている。

参考文献：『旅のスケッチ帖』風間完/著，角川書店，1995 年 など

きくた まもる  
**菊田 守**

昭和 10(1935)年 7 月～

詩人。中野区鷺宮生まれ。明治大学卒業後、西武信用金庫に勤めた。1994 年、詩集『かなかな』により第一回丸山薫賞受賞。日本現代詩人会元会長。19 歳の頃から詩を書き続けており、内容は、生まれてから一度も離れることなく住み続けている鷺宮での生活や風景、自然、昆虫や動物を歌ったものが多い。

参考文献：『夕焼けと自転車』菊田守/著，土曜美術社出版販売，2006 年 など

きた いっき  
**北 一輝**

明治 16(1883)年 4 月 3 日～昭和 12(1937)年 8 月 19 日

国家主義者。佐渡中学を中退後、上京した。右翼運動の指導者として、皇道派青年将校から偶像視された。昭和 11 年の国家改造を目指す陸軍青年将校が起こしたクーデターである 2.26 事件では、北は助言と指導を与えたとして事件後検挙され、翌 12 年 8 月獄中で刑死した。昭和 9 年に大久保から中野桃園町の新居に越しており、その際「今回新しき静かな家に移りました」と手紙に残している。その家が最後の家であった。

参考文献：『評伝 北一輝 5』松本健一/著，岩波書店，2004 年 など

くしだ たみぞう  
**櫛田 民蔵**

明治 18(1885)年 11 月 16 日～昭和 9 (1934)年 11 月 5 日

マルクス経済学者。福島県出身。東京外国語学校卒業後、京都帝大法科に進学。河上肇に師事し、経済学を学ぶ。49 歳で急死するまで、在野の研究者としてマルクス経済学の研究に没頭した。妻ふきと共に鷺宮に住んでおり、当時治安維持法違反の標的にされていた師・河上肇を匿まっていたのもこの家であった。民蔵が死去した後も、河上はたびたび訪れている。

参考文献：『櫛田民蔵・日記と書簡』櫛田民蔵/著，社会主義協会出版局，1984 年 など

くしだ  
**櫛田 ふき**

明治 32(1899)年 2 月 17 日～平成 13(2001)年 2 月 5 日

女性運動家。ドイツ語教師である父の教え子櫛田民蔵と結婚、35 歳で未亡人となる。昭和 21 年婦人民主クラブの結成に参加し、初代書記長に選ばれた。その後、日本婦人団体連合会の会長、新日本婦人の会の代表役員、原水爆禁止世界大会議長団などをつとめた。著書では、「途中で鷺宮に越しましてね、ご近所に壺井栄・繁治ご夫妻がいらしておつきあいしているうちに、「この戦争はよくない戦争で、必ず負ける」と聞いていましたから」など、中野での生活の思い出を綴っている。

参考文献：『八度めの年おんな』櫛田ふき/著，岩波書店，1995 年 など

さがわ よしえ  
**佐川 芳枝**

昭和 25(1950)年～

寿司屋のおかみ・作家。東京生まれ。高校を卒業後、都市銀行などに勤める。昭和 50 年、東中野の寿司屋「名登利寿司」の主人と結婚。店先に立つ一方で、文筆業もこなす。「寿司屋のかみさん」シリーズは、寿司屋のおかみとして体験したエピソードや、来店したお客様との会話、寿司ネタにまつわる話などをまとめたエッセイ。また、児童文学の執筆も手掛けており、2003 年には『寿司屋の小太郎』で第 13 回椋鳩十児童文学賞を受賞した。

参考文献：『寿司屋のかみさんうちあけ話』佐川芳枝/著，講談社，1995 年 など

たかはし しんきち  
**高橋 新吉**

明治 34(1901)年 1 月 28 日～昭和 62(1987)年 6 月 5 日

詩人。愛媛県生まれ。1918 年、人と違った道を歩みたいという願望により、家族に無断で上京。1920 年、新聞『万朝報』に『焰をかかぐ』が入選する。同年、ダダイズムと呼ばれる反芸術運動に衝撃を受ける。1922 年、佐藤春夫を知る。1945 年、空襲により自宅が焼失し、江古田に移る。著書に『ダダイスト新吉の詩』『高橋新吉詩集』などがある。

参考文献：『ダダイスト新吉の詩』高橋新吉/著，日本図書センター，2003 年 など



たなか すみえ  
**田中 澄江**

明治 41(1908)年 4 月 11 日～平成 12 年(2000)年 3 月 1 日

劇作家。東京生まれ。学生時代から『月夜の新聞』などの作品を発表。昭和 9 年に田中千禾夫と結婚、菊池寛主催の戯曲研究会に入る。昭和 10 年、最初の長編戯曲『はる・あき』を執筆、夫・千禾夫の演出により文学座で上演された。昭和 28 年、中野区野方に転居。以後、『春を待つ女たち』、『がらしあ・細川夫人』など夫婦二人三脚で作品を残した。昭和 47 年から昭和 53 年まで中野区教育委員を務め、著書『いま、若いお母さんたちに言いたいこと』は、「教育現場に触れての、切実な感想なり、意見をまとめたものである。」としている。

参考文献：『夫婦で六十二年』田中澄江・田中千禾夫/著, 講談社/出版, 1997 年 など

たなか ちかお  
**田中 千禾夫**

明治 38(1905)年 10 月 10 日～平成 7(1995)年 11 月 29 日

劇作家・演出家。長崎県生まれ。昭和 7 年、第一次制作同人となり、岸田国士、岩田豊雄(獅子文六)に師事。昭和 9 年、劇作家・田中澄江(旧姓：辻村)と結婚。目立った活動は戦後になってからのことで、昭和 22 年に上演された『雲の涯』を皮切りに、次々に新作を生み出した。昭和 28 年に中野区野方に転居。昭和 34 年、『マリアの首』で第 10 回芸術選奨文部大臣賞を受賞するなど、精力的に活動した。

参考文献：『祈りの懸け橋』石澤秀二/著, 白水社, 2004 年 など

たわら もえこ  
**俵 萌子**

昭和 5(1930)年 12 月 7 日～平成 20 年(2008)年 11 月 27 日

評論家、エッセイスト。大阪府生まれ。昭和 56 年から昭和 60 年まで、中野区教育委員を務めた。全国初の準公選によるものであった。就任直後から、問題は山積み。区内中学校の生徒が起こした事件から卒業式の在り方まで、どんな事案に対しても熱意を持って対応した。その時の様子は、著書『俵萌子の教育委員日記』に詳しい。

参考文献：『俵萌子の教育委員日記』俵萌子/著, 毎日新聞社, 1983 年 など

つほい さかえ  
**壺井 栄**

明治 32(1899)年 8 月 5 日～昭和 42(1967)年 6 月 23 日

小説家、童話作家。香川県生まれ。大正 14 年、後の夫となる詩人・壺井繁治に誘われ上京、その年の 2 月に結婚。昭和 3 年より全日本無産者芸術連盟(ナップ)に参加。昭和 5 年、繁治が日本共産党のシンパ事件容疑で豊多摩刑務所に投獄される。栄は事務員として献身的に働きながら、夫の帰還を待った。昭和 17 年より中野区白鷺に住む。昭和 27 年に代表作『二十四の瞳』を連載。同作品は、女優・高峰秀子主演で映画化された。昭和 42 年、激しい喘息の発作に見舞われ、自宅近くの病院で死去。

参考文献：『評伝 壺井栄』鷺只雄/著，翰林書店，2012 年 など

とうはた あさこ  
**東畑 朝子**

昭和 6(1931)年 3 月 11 日～

栄養士。東京都生まれ。農業経済学者・東畑精一の次女。昭和 27 年女子栄養短期大学を卒業後、昭和 29 年まで国立中野療養所の栄養士として勤務。その後、北里研究所附属病院栄養士を経て、昭和 31 年から 36 年まで東京大学医学部助手、昭和 33 年から平成 19 年まで女子栄養大学の講師・客員教授、平成 28 年 3 月までは香川栄養学園評議員を務めた。

さらに、フード・ドクターとしてメディアでも活躍した。

参考文献：『六十歳からの快適ダイエット』東畑朝子/著，海竜社，1991 など

ふくはら りんたろう  
**福原 麟太郎**

明治 27(1894)年 10 月 23 日～昭和 56(1981)1 月 18 日

英文学者、随筆家。広島生まれ。昭和 6 年東京文理科大学(現・筑波大学)の助教授に就任、昭和 14 年に教授となる。昭和 21 年に立教大学教授を兼任するなど、学問に情熱を注いだ。昭和 23 年中野区野方町に転居し、26 年に隣地に家を新築し移転。亡くなるまで 30 年以上を野方で過ごした。著書『野方閑居の記』には、自宅に招いた知人に「これは野方の料理なんだ」と言って料理を自慢する様子など、野方で暮らしについても綴られている。

参考文献：『野方閑居の記』、福原麟太郎/著、沖積舎、1987 年 など



昭和 39 年 11 月 野方駅

提供：中野区広報担当

ふじた  
**藤田 たき**

明治 31(1898)年 12 月 23 日～平成 5(1993)年 1 月 4 日

津田塾大学学長。愛知県生まれ。大正 9 年、女子英学塾(津田塾)を卒業後、米国布林マー大学へ留学。帰国後は、津田塾専門学校で教鞭をとる。昭和 3 年、第 1 回汎太平洋婦人会議に最年少で参加したのをきっかけに、市川房枝ら率いる婦選獲得同盟に参加。昭和 37 年、母校津田塾大学学長に就任。女子教育の発展と向上に尽力。昭和 57 年、名誉都民に選ばれる。中野区東中野に住み、その時の様子を著書『東中野日記(I～VI)』に書き残している。

参考文献：『東中野日記』藤田たき/著、ドメス出版、1989 年 など

まき あさみ  
牧 阿佐美

昭和 8(1933)年 5 月 12 日～

牧阿佐美バレエ団主宰者、橘バレエ学校校長。東京生まれ。昭和 8 年、共にダンサーであった橘秋子と牧幹夫の長女として生まれる。昭和 31 年、牧阿佐美バレエ団を母と共に設立。若干 23 歳で、自分の名を冠したバレエ団の芸術監督となる。昭和 46 年に母が亡くなり、その遺志を継いで舞台を退く。稽古場は吉祥寺、渋谷・富ヶ谷を経て現在の中野に移る。中野に移ってから 30 年余の月日が流れており、その歴史は長い。平成 11～22 年、新国立劇場舞踊芸術監督。平成 13 年からは新国立劇場バレエ研修所所長を務めている。

参考文献：『バレエに育てられて』牧阿佐美／著，新書館，2009 年 など

まつき まんじ  
松木 満史

明治 39(1906)年 1 月 21 日～昭和 46(1971)年 3 月 26 日

画家。青森生まれ。1919 年、青森の仏師本間正明に弟子入りする。1923 年、17 歳で棟方志功主宰の青光画社に参加、展覧会に出品する。この頃、絵画や彫刻に励んでいた。1927 年に結婚。上沼袋(現・中野区大和町)に住む。転居や疎開により一時離れるが、1945 年に大和町に再び戻る。作品に「沼袋風景」などがある。

参考文献：『松木満史画集』松木満史／画，松木満史画集刊行会，1979 年 など



昭和 7 年 沼袋農村風景  
提供：中野区広報担当

みぎし こうたろう  
**三岸 黄太郎**

昭和 5(1930)年 9 月 27 日～平成 21(2009)年 12 月 27 日

画家。中野区鷺宮に三岸好太郎・節子夫妻の長男（第三子）として生まれる。昭和 22 年頃より油絵を描き始めた。昭和 28 年、銀座にて初の個展。同年、私費留学生としてフランスに渡った。昭和 30 年に帰国するが、昭和 43 年、母と家族と一緒に再び渡仏し定住した。

参考文献：『炎の画家三岸節子』吉武輝子/著，文藝春秋/出版，1999 年など

みぎし こうたろう  
**三岸 好太郎**

明治 36(1903)年 4 月 18 日～昭和 9(1934)年 7 月 1 日

画家。札幌生まれ。大正 7 年、15 歳で油絵に興味を持ち札幌第一中学校の霞会に属し、林竹治郎の指導を受ける。大正 10 年、中学を卒業後に上京し、新聞配達や郵便局などの職に就いた。大正 11 年、中央美術社展に〈静物〉が入選。この年、後の妻・吉田節子を知る。大正 13 年、21 歳で節子と結婚。昭和 4 年、鷺宮にて自宅兼第一アトリエの建設が始まり、翌年には後の画家・黄太郎が誕生する。この頃描いた作品は、〈マリオネット〉〈黄服少女〉など。昭和 9 年、新アトリエの完成を待たずに旅行先で急逝。

参考文献：『三岸好太郎 昭和洋画史への序章』匠秀夫/著，求龍堂，1992 年 など

みぎし せつこ  
**三岸 節子**

明治 38(1905)年 1 月 3 日～平成 11(1999)年 4 月 18 日

画家。愛知県生まれ。大正 10 年、愛知淑徳高等女学校を卒業。大正 11 年、女子美術学校(現・女子美術大学)に編入し、大正 13 年に首席で卒業。同年、展覧会で知り合った三岸好太郎と結婚。昭和 5 年、後に画家となる長男・三岸黄太郎を出産。この頃、一家は鷺宮に居を構えていた。昭和 9 年、夫・好太郎が旅行先で急逝。同じ年、夫の生前より建設していたアトリエが完成、節子はおよそ 20 年をこのアトリエで過ごした。建物は登録有形文化財として登録され、現在も鷺宮の地で見ることができる。

参考文献：『三岸節子画集 1936 - 1994』三岸節子/著，ビジョン企画出版社，1994 年 など

みながわ ほんすい  
**皆川 盤水**

大正 7(1918)年 10 月 25 日～平成 22(2010)年 8 月 29 日

俳人。福島生まれ。戦前、高山峻峰、金子麒麟草らに師事。昭和 39 年、第一句集『積荷』を出版。昭和 41 年、東中野より俳誌『春光』を主宰創刊。昭和 43 年、『春光』は『春耕』と改題された。平成 6 年、第 6 句集『寒靄』で俳人協会賞受賞。句集に『銀山』『板谷峠』『山晴』などがある。

参考文献：『春耕 1990 年 12 月号』春耕俳句会，1990 年 など

もとはし せいいち  
**本橋 成一**

昭和 15(1940)年 4 月 3 日～

写真家、映画監督。東中野生まれ。1962 年に自由学園を卒業後、東京総合写真専門学校に入学。1995 年、写真集『炭鉱 〈ヤマ〉』で第 5 回太陽賞受賞。『ナージャの村』で第 17 回土門拳賞受賞。同名の初監督ドキュメンタリー映画作品文化庁優秀映画作品賞を受賞するなど、高い評価を得ている。

1990 年、写真事務所として「ポレポレタイムス社」を東中野に設立。その後、1996 年に映画配給部門「サスナフィルム」設立、2003 年には映画館「ポレポレ東中野」の運営を開始するなど、幅広く事業を展開している。現在も東中野在住。

参考文献：『炭鉱 〈ヤマ〉』本橋成一/写真，海鳥社，2015 年 など

(敬称略・五十音順)

# 年 表

年代		中野の主な出来事	主な出来事	これまで紹介した人々			
				井上円了	松本泰	松本恵子	古木鐵太郎
1858年	安政5年		日米修好通商条約締結	井上円了 越後国生まれ。			
1860年	万延元年		桜田門外の変				
1866年	慶応2年		薩長同盟				
1867年	慶応3年		大政奉還王政復古の大号令				
1868年	明治元年	中野地域は武蔵知県事に編成される。					
1871年	明治4年	廃藩置県により東京府に編入。第三大区に属す。	廃藩置県	東本願寺にて得度名を円了と改める			
1873年	明治6年	中野村ほか7村は第八大区第六大区、江古田村ほか3村は第八大区第七大区に配属される。	大区制が改定。				
1878年	明治11年	中野村他12村は東多摩郡に、中野村に郡役所が設置される。	大区小区制廃止。				
1881年	明治14年			東京大学文学部哲学科に入学			
1885年	明治18年		内閣制度制定				
1887年	明治20年			哲学館（東洋大学の前身）を創立	松本泰 2月22日東京出身		
1888年	明治21年			第一回海外視察に出発			
1889年	明治22年	中野村、野方村が発足。甲武鉄道(中央線の前身)内藤新宿―立川間開通。中野駅開設。	大日本帝国憲法発布 市制・町村制施行				
1891年	明治24年					松本恵子 1月8日北海道出身	
1894年	明治27年		日清戦争(～1905)				
1895年	明治28年		下関条約調印				
1896年	明治29年	東多摩郡・南豊島郡が合併、豊多摩郡が置かれる					
1899年	明治32年						古木鐵太郎 7月13日 鹿児島県出身
1902年	明治35年			第2回海外視察に出発			
1903年	明治36年						
1904年	明治37年	飯田町と中野間に電車が開通。	日露戦争(～1905)	哲学堂（四聖堂）の開堂式を挙行			
1905年	明治38年		ポーツマス条約調印				
1906年	明治39年	柏木停車場が開設される。（大正6年東中野駅に改称）		哲学館大学から改称し、東洋大学が設立される			
1909年	明治42年		伊藤博文暗殺	哲学堂の創立に着手			
1910年	明治43年	中野刑務所設立	韓国併合				
1912年	明治45年		明治天皇逝去				
1913年	大正2年				イギリスに遊学	青山学院英文専門課程に入学	



年代		中野の主な出来事	主な出来事	これまで紹介した人々			
				井上円了	松本泰	松本恵子	古木鐵太郎
1914年	大正3年		第一次世界大戦 (ドイツに対し宣戦)				
1915年	大正4年			哲学堂図書館の 落成式を挙行			
1916年	大正5年					イギリスに遊学	
1918年	大正7年				ロンドンにて結婚		
1919年	大正8年			6月6日 大連で脳溢血を起こし 死去 享年61歳	帰国		
1920年	大正9年	国立中野療養所設立	国際連盟成立				上京 雑誌『改造』の編集 部に入る
1921年	大正10年				初めての探偵小説 「濃霧」を発表		
1923年	大正12年		関東大震災			奎連社を創設し、『秘密探偵雑誌』を発行	
1924年	大正13年	野方村、町制を施行し、野方町に改称。				東中野に文化住宅を建設	
1925年	大正14年		普通選挙法・治安維持法公布			奎連社から『探偵文藝』を発行	
1926年	大正15年		大正天皇逝去				
1927年	昭和2年	村山線(西武新宿線の前身)開通。					改造社を退社
1928年	昭和3年						小出版社の編集に 携わる
1929年	昭和4年					クリスティー/著「ア クロイド殺し」の翻訳 を刊行	小出版倒産を機に 小説に専念
1930年	昭和5年						
1931年	昭和6年		満州事変				
1932年	昭和7年	中野、野方両町が合併し中野区となる。	満州国建国 東京市、隣接五郡八十二ヶ 町村を編入 五・一五事件発生				
1933年	昭和8年						
1935年	昭和10年						
1936年	昭和11年		二・二六事件発生 日中戦争勃発(~1945)		共訳で『チャッケンス 物語全集』刊行		
1937年	昭和12年						
1938年	昭和13年	旧電信隊跡に後方勤務委員養成所が移転。	国家総動員法成立。			北京に取材旅行	『子の死と別れた 妻』が芥川賞候補に 名前があがる
1939年	昭和14年	後方勤務委員養成所から陸軍中野学校に名 称変更。	第二次世界大戦		4月19日 死去享年52歳		
1940年	昭和15年		日独伊三国軍事同盟条約調印			オルコット/著『四人 姉妹(現若草物語)』翻 訳を刊行	
1941年	昭和16年	中野区内全域に町内会が整備される	太平洋戦争突入			ミルン/著『小熊の ブーム』翻訳を刊行	総合雑誌『公論』の 小説欄担当となる
1942年	昭和17年					創作童話集『もずの くつやさん』刊行	
1943年	昭和18年		都制が施行され、 東京府から東京都になる				
1944年	昭和19年						通信院総務局委員囑 託となり、機関誌 『大通信』の編集に 携わる

棟方志功	大橋秀雄	香山滋	巽聖歌	新美南吉	阪田寛夫	田沼武能	伊東豊雄	長谷川逸子
青森地方裁判所の 弁護士控所給仕になる								
ゴッホを知り、 油彩を始める								
			上京					
上京			時事新報社に入社					
		法政大学経済学部 中退 大蔵省に入省			阪田寛夫 10月18日大阪市出身			
松木満史のアトリエ で共同生活								
油絵「雑園」が 帝展に初入選	警視庁巡査となる							
			『赤い鳥』休刊 アルス社に入社	ペンネーム「南吉」を 使い始める		田沼武能 2月18日 浅草出身		
赤城チャヤと結婚				与田準一らと童謡・ 童話雑誌『乳樹』 発刊				
			『赤い鳥』復刊 童謡集『雪と驢馬』 発刊	上京				
家族と借家に移る			上高田で同居を始める 武居千春と結婚	東京外国語学校英語 部へ入学 外語の寮へ移る				
		伊賀山佐だと結婚		寮から新井へ移る 『手袋を買いに』を 創作				
	特高主任として、 中野警察署勤務 となる							
「大和しよし」を国画 会展 に出品	外事課報課欧米係 ロシア班に転勤			東京外国語学校卒業 東京土産品協会に就 職のため帰郷				
			佐藤義美、与田準一 らと「幼年文芸サー クル」結成	河和第一尋常高等小 学校の代用教員となる				
				安城高等女学校の正 教員となる				
「釈迦十大弟子」を国 画会展に出品、佐分 賞受賞								
			童謡「たきび」がラ ジオ放送されるも、 軍部に差止められる				伊東豊雄 6月1日 韓国ソウル出身	長谷川逸子 12月1日 静岡県出身
	国際スパイ事件 (ソルゲ事件) 発表			『おじいさんのラン プ』刊行				
	巣鴨警察署次長 となる			3月22日咽喉結核の 為死去 享年29歳	旧制高知高等学校文 学課入学 三浦朱門と同級とな る			
	ソルゲ、刑執行		岩手県に疎開		令状が届き入隊、 中国へ			

年代	中野の主な出来事	主な出来事	これまで紹介した人々			
			井上円了	松本泰	松本恵子	古木鐵太郎
1945年	昭和20年	4・5月の空襲により、中野区は焼失戸数2913戸の被害を受ける 陸軍中野学校・憲兵学校等がある陸軍の兵營にGHQ進駐				
1946年	昭和21年					
1947年	昭和22年	地方自治法が施行され、中野区は特別区として発足				通信院囑託を退く
1948年	昭和23年	桃園第三小学校内に区立図書館開館				
1949年	昭和24年	狹窪より警察大学校、付属通信学校、警視庁警察学校が中野に移転 「中野区報」創刊。				
1950年	昭和25年	区立図書館が第九中学校敷地内に移転開館				
1951年	昭和26年	中野駅南口広場完成				
1952年	昭和27年	中野区教育委員会が発足 文化会館完成。図書館が文化会館内に移転。				
1953年	昭和28年					
1954年	昭和29年					3月2日 肺壞疽の為死去 享年54歳
1955年	昭和30年	中野公会堂落成				
1956年	昭和31年					
1958年	昭和33年					
1960年	昭和35年					
1961年	昭和36年	地下鉄丸の内線開通(新宿―新中野間、中野坂上―中野富士見町間)				
1962年	昭和37年	中野区史料館開館				
1963年	昭和38年	中野図書館完成				
1964年	昭和39年	環状七号線完成				
1965年	昭和40年					
1966年	昭和41年	中野ブロードウェイが開業 地下鉄東西線開通				
1967年	昭和42年	区内全域に住居表示実施が完了				
1968年	昭和43年	本町図書館開館 区役所新庁舎が落成				
1969年	昭和44年	野方図書館開館				
1970年	昭和45年	区立体育館開館				
1971年	昭和46年					
1972年	昭和47年					
1973年	昭和48年	全国勤労青少年会館(中野サンプラザ)開館				
1974年	昭和49年					第16回日本児童文芸家協会児童文化功労賞を受賞

棟方志功	大橋秀雄	香山滋	巽聖歌	新美南吉	阪田寛夫	田沼武能	伊東豊雄	長谷川逸子
	警備隊東部大隊に転勤							
		処女作「オラン・パンデクの復習」を『宝石』に投稿、入選			東京大学文学部に復学	東京写真工業専門学校に入学		
	池上警察署の署長となる	「海鏡荘奇譚」が第一回探偵作家クラブ新人賞を受ける	東京都日野市に移住					
						東京写真工業専門学校卒業 サンニュースフォトスに入社 木村伊兵衛と出会い、師事する		
					三浦朱門らと小説同人誌「新思潮」を創刊			
					結婚 朝日放送大阪本社に入社	芸術新潮の嘱託員となる		
	荒川警察署長となる							
	渋谷警察署長となる							
		「G作品検討用台本」(ゴジラ)を執筆						
					朝日放送東京支社に転勤			
日展評議員となる この頃より左眼失明			『新美南吉全集』全3巻刊行					関東学院大学工学部建築学科に入学
			『新美南吉全集』が産経児童出版文化賞受賞					
					朝日放送退社			
								菊竹清訓建築設計事務所勤務
					童謡「マーチング・マーチ」で第7回レコード大賞童謡賞受賞	タイム・ライフ社の契約写真家となる	東京大学工学部建築学科卒業 菊竹清訓建築設計事務所勤務	
毎日芸術大賞 文化勲章受章、文化功労者となる								
							株式会社アーバンロポット設立	
						フリーランスとなる		
			4月24日 心不全の為死去 享年67歳					
					『うたえパンパン』が第4回日本童謡賞を受賞			

年代		中野の主な出来事	主な出来事	これまで紹介した人々			
				井上円了	松本泰	松本恵子	古木鐵太郎
1975年	昭和50年	中野駅北口美観商店街、サンモール街となる					
1976年	昭和51年					11月9日 死去 享年85歳	
1978年	昭和53年	南台図書館開館	日中平和友好条約調印				
1979年	昭和54年	鷺宮図書館開館					
1980年	昭和55年		イラン・イラク戦争				
1983年	昭和58年	中野刑務所廃庁					
1984年	昭和59年	東中野図書館開館					
1985年	昭和60年	平和の森公園北側部分開園、少年のスポーツ広場も開設					
1986年	昭和61年	江古田図書館開館	東京サミット開催				
1987年	昭和62年	中野図書館コンピュータシステム稼働					
1988年	昭和63年	上高田図書館開館					
1989年	平成元年	山崎記念歴史民俗資料館開館	昭和天皇逝去 ベルリンの壁崩壊				
1990年	平成2年						
1991年	平成3年		ソビエト連邦消滅				
1993年	平成5年	野方区民ホール開設 もみじ山文化センター(なかのZERO)・中央図書館開館					
1995年	平成7年		阪神・淡路大震災 東京地下鉄サリン事件				
2001年	平成13年	警察大学校が府中に移転	ニューヨーク・ワシントン同時多発テロ				
2002年	平成14年						
2003年	平成15年	図書館ホームページ開設					
2005年	平成17年						
2010年	平成22年	旧野方配水塔が国の登録有形文化財に登録					
2011年	平成23年		東日本大震災				
2013年	平成25年						
2015年	平成27年						
2016年	平成28年						

参考文献：『中野区の歴史』 関利雄・鎌田優/著,名著出版,1979年  
『日本史年表・地図』 児玉幸多/編,吉川弘文館,2015年  
『中野区勢概要 平成27年度版』 中野区/編,中野区,2015年

#### 凡例

略歴

中野に住んでいた時期

棟方志功	大橋秀雄	香山滋	巽聖歌	新美南吉	阪田寛夫	田沼武能	伊東豊雄	長谷川逸子
9月13日 肺がんの為死去 享年72歳		2月7日 心不全の為死去 享年70歳						
					詩集『サッチャン』 で第6回日本童謡賞 を受賞			
							事務所を株式会社伊 東豊雄建築設計事務 所に改称	長谷川逸子・建築計 画工房株式会社設立
					第18回野間児童文芸 賞受賞 第1回赤い靴児童文 化大賞受賞			
					第26回児童福祉文化 賞奨励賞、 第7回絵本にっぽん 賞大賞受賞	ユニセフ親善大使の 黒柳徹子氏に同行す るようになる		
							日本建築学会賞作品 賞受賞	
					第45回日本芸術院賞 恩賜賞受賞			
					『まどさんのうた』 で第20回赤い鳥文学 賞特別賞受賞	紫綬褒章受章		
							グッドデザイン大賞 受賞	ロンドン大学 名誉学位受賞
	6月1日 死去 享年99歳					勲三等瑞宝章受章	ヴェネツィア・ピエ ンナーレ 金獅子賞 受賞	
						文化功労者に 顕彰される		
					3月22日 肺炎のため死去 享年79			
							ブリツカー建築賞 受賞	
							新国立競技場再コン ペに出品	

第13回中野区ゆかりの著作者紹介展示 ゆかり展示回顧録 ～中野の偉人・文化人ハイライト～ ブックリスト

第1回 ソルゲ事件捜査官 大橋秀雄氏

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
私の警察功過録	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1993	317.7 オ	禁帯
元警察官吏の独語 巡査から警察署長まで	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1986	317.7 オ	禁帯
うらの話	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1983	317.7 オ	禁帯
浜っ子日記	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1981	317.7 オ	禁帯
第二警察物語	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1979	317.7 オ	禁帯
特高警察官の手記	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1978	317.7 オ	禁帯
真相ソルゲ事件	大橋 秀雄／著	大橋 秀雄	1977	317.7 オ	禁帯
ソルゲとの約束を果たす 真相ソルゲ事件	松橋 忠光／著	オリジン出版センター	1988	210.7 マ	

第2回 写真家 田沼武能氏

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
60億の肖像	田沼 武能／著	日本カメラ社	2004	748 タ	
輝く瞳世界の子ども 田沼武能写真集	田沼 武能／著	岩波書店	2002	748 タ	
トットちゃんとおアガニスタンの子どもたち 田沼武能写真集	田沼 武能／著	岩崎書店	2002	748 タ	
日本の写真家 29 田沼武能	田沼 武能／著	岩波書店	1998	748 ニ	
回想山口瞳 江分利満氏の想い出四〇年	田沼 武能／著	岩崎芸術社	1997	910.26 ヤ	
地球星の子どもたち 田沼武能写真集	田沼 武能／著	朝日新聞社	1994	748 タ	
わが心の残像	田沼 武能／著	文芸春秋	1991	748 タ	
文士の肖像	田沼 武能／著	新潮社	1991	910.26 タ	
バルセローナの旅	田沼 武能／著	リプロポート	1990	293.6 タ	
アトリエの101人 田沼武能写真集	田沼 武能／著	新潮社	1990	702.8 タ	
アンデスの旅	田沼 武能／著	リプロポート	1988	296.8 タ	
ほくたち 地球っこ 田沼武能写真集	田沼 武能／著	朝日新聞社	1985	748 タ	
東京の中の江戸 写真集	田沼 武能／著	小学館	1983	382.1 タ	
武蔵野	田沼 武能／著	朝日新聞社	1974	748 タ	
こころにひかる物語 2	三木 卓／編	かまくら春秋社	2001	914.68 コ	
子どもの人権を考える	創価学会婦人平和委員会／編	第三文明社	1997	369.4 コ	
ビジュアルブック江戸東京 4 昭和30年東京ベルエポック	川本 三郎／編	岩波書店	1992	213.6 ビ	
紫陽花色のスペイン	木下 登／著	全国書籍出版	1992	293.6 キ	
月曜日の朝	山口 瞳／著	新潮社	1977	914.6 ヤマ	

第3回 国立中野療養所と江古田の作家たち

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
立原道造鮎の歌	立原 道造／著	みすず書房	2004	913.6 タチ	
立原道造詩集	立原 道造／著	思潮社	1982	911.56 タ	
忠誠と反逆 転形期日本の精神史的位相	丸山 眞男／著	筑摩書房	1992	311.2 マ	
日本政治思想史研究	丸山 眞男／著	東京大学出版会	1983	311.2 マ	
女性線	松田 解子／著	あけび書房	1995	913.6 マツ	
またあらぬ日々	松田 解子／著	新日本出版社	1973	913.6 マツ	
八月がくるたびに	おおい ひで／著	理論社	1987	913 オ	
日本プロレタリア文学集 18 「戦旗」「ナツプ」作家集	高見 順[ほか]／著	新日本出版社	1986	913.68 ニ	
平林たい子全集 1	平林 たい子／著	潮出版社	1979	918.68 ヒラ	
現代文学大系 40 平林たい子 円地文子集	平林たい子・円地文子／著	筑摩書房	1965	918.6 ゲ	
なまみこ物語	円地 文子／著	新潮社	1976	913.6 エン	
源氏歌かるた	円地 文子／著	徳間書店	1974	798 エ	
学問への情熱 明石原人発見者の歩んだ道	直良 信夫／著	岩波書店	1995	289.1 ナ	禁帯
古代人の生活	直良 信夫／著	至文堂	1963	210.2 ナ	禁帯
芸術無限に生きて 鈴木良三遺稿集	鈴木 良三／著	木耳社	1999	723.1 ス	禁帯
茨木杉風作品集	茨木 杉風／著	茨木陽介	1976	721.9 イ	禁帯
現代日本建築家全集 9 白井晟一	白井 晟一／著	三一書房	1977	520.8 ゲ	

第4回 現代日本の建築家 伊東豊雄と長谷川逸子

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
けんちく世界をめぐる10の冒険	伊東豊雄建築塾／編	彰国社	2006	520.4 イ	
ライト・ストラクチャーのディテール	伊東 豊雄／著	彰国社	2001	520.8 イ	
風の変様体 建築クロニクル	伊東 豊雄／著	青土社	2000	520.4 イ	
八代市立博物館・未来の森ミュージアム	伊東 豊雄／著	TOTO出版	1992	526.0 イ	
つくる図書館をつくる 伊東豊雄と多摩美術大学の実験	鈴木 明／著	鹿島出版会	2007	017.7 ツ	
にほんの建築家伊東豊雄・観察記	瀧口 範子／著	TOTO出版	2006	523.1 タ	
住宅の射程	磯崎 新／著	TOTO出版	2006	527.0 イ	
藤森照信×伊東豊雄の住宅セレクション30 Vol.1 2005年東京建築士会主催「住宅アイデアコンペ」の入賞30作品	東京建築士会／著	エクスナレッジ	2006	527.1 ト	
GAアーキテクト 世界の建築家 17 伊東豊雄	二川 幸夫／著	エーディーエー・エディタ・トーキョー	2001	520.8 ジ	
中野本町の家	後藤 暢子／著	住まいの図書館出版局	1998	527 ナ	
メディアの現在	尼ヶ崎 彬／著	ベリかん社	1991	704 メ	
長谷川逸子・デザインスタジオ2004	長谷川 逸子／著	関東学院大学出版会	2006	525.1 ハ	
長谷川逸子／ガランドウと原っぱのディテール	長谷川逸子・建築計画工房／編	彰国社	2004	520.8 ハ	
生活の装置 私の住宅設計	長谷川 逸子／著	住まいの図書館出版局	1999	527.1 ハ	
Process city New wave of waterfront	長谷川 逸子／著	港湾空間高度化センター	1998	517.8 プ	
長谷川逸子	長谷川 逸子／著	メイセイ出版	1997	520.8 ハ	
長谷川逸子 2 1985-1995	長谷川 逸子／著	鹿島出版会	1997	520.8 ハ	
Future Visionの系譜 水の都市の未来像	東京エコンティ展「Future Visionの系譜」 実行委員会／編	鹿島出版会	2006	518.8 ト	
グローバルな環境問題を考える	中村 元[ほか]／著	福村出版	1993	519 グ	
同時代の建築 八人の建築家たち	宇波 彰／著	青土社	1988	520.4 ウ	
元気印の女たち 筑紫哲也対論集	筑紫 哲也／編	すずさわ書店	1987	367.0 チ	
吉阪隆正対談集 君は二十一世紀に何をしているか	吉阪 隆正／編	新建築社	1979	520.4 ヨ	

第13回中野区ゆかりの著作者紹介展示 ゆかり展示回顧録 ～中野の偉人・文化人ハイライト～ ブックリスト

第5回 生誕150年「不思議博士・井上円了」

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
井上円了・外道哲学 漢訳経典によるインド哲学研究	井上 円了／著	柏書房	2003	181 イ	
井上円了・世界旅行記	井上 円了／著	柏書房	2003	290.9 イ	
井上円了・妖怪学全集 第1巻	井上 円了／著	柏書房	1999	147.6 イ	
井上円了・妖怪学全集 第2巻	井上 円了／著	柏書房	1999	147.6 イ	
井上円了・妖怪学全集 第3巻	井上 円了／著	柏書房	1999	147.6 イ	
井上円了・妖怪学全集 第4巻	井上 円了／著	柏書房	2000	147.6 イ	
井上円了・妖怪学全集 第5巻	井上 円了／著	柏書房	2000	147.6 イ	
井上円了・妖怪学全集 第6巻	井上 円了／著	柏書房	2001	147.6 イ	
おぼけの正体	井上 円了／著	国書刊行会	1987	147.6 イ	
靈魂不滅論	井上 円了／著	国書刊行会	1987	147.6 イ	
迷信解	井上 円了／著	国書刊行会	1986	387.9 イ	
迷信の諸相・宗教の真相	井上 円了／著	群書	1983	147.6 イ	
霊を読む	一柳 廣孝[ほか]／著	蒼丘書林	2007	913.68 レ	
死一怨念14=妖気 幻想・怪奇名作選	ボチ／編	ペンギンカンパニー	1993	913.68 シ	
アメリカ古典文庫 23 日本人のアメリカ論	亀井 俊介[ほか]／著	研究社出版	1977	083 ア	
明治文學全集 80 明治哲學思想集	西 周[ほか]／著	筑摩書房	1977	918.6 メ	
明治文學全集 87 明治宗教文學集	福田 行誠[ほか]／著	筑摩書房	1977	918.6 メ	

第6回 作家・阪田寛夫 ～童謡「サッチャン」の詩人・小説家～

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
阪田寛夫詩集	阪田 寛夫／著	角川春樹事務所	2004	911.56 サ	
ピーター・パン探し	阪田 寛夫／著	講談社	1999	913.6 サカ	
讚美歌こころの詩	阪田 寛夫／著	日本基督教団出版局	1998	196.5 サ	
含羞詩集	阪田 寛夫／著	河出書房新社	1997	911.56 サ	
童謡の天体	阪田 寛夫／著	新潮社	1996	913.6 サカ	
夕日がせなかをおしてくる 阪田寛夫童謡詩集	阪田 寛夫／著	岩崎書店	1995	911.58 サ	
武者小路房子の場合	阪田 寛夫／著	新潮社	1991	913.6 サカ	
ほんこつマーチ 新版	阪田 寛夫／著	大日本図書	1990	911 サ	
春の女王	阪田 寛夫／著	福武書店	1990	913.6 サカ	
ノキが来た 詩人・画家 宮崎丈二	阪田 寛夫／著	新潮社	1989	913.6 サカ	
てんとうむし	阪田 寛夫／著	童話屋	1988	911 サ	
天山	阪田 寛夫／著	河出書房新社	1988	913.6 サカ	
童謡でてこい	阪田 寛夫／著	河出書房新社	1986	914.6 サカ	
まどさん	阪田 寛夫／著	新潮社	1985	911.52 マ	
夕方のにおい	阪田 寛夫／著	教育出版センター	1982	911 サ	
燭台つきのピアノ	阪田 寛夫／著	人文書院	1981	914.6 サカ	
サッチャン	阪田 寛夫／著	国土社	1980	911 サ	
漣げや海尊	阪田 寛夫／著	講談社	1979	913.6 サカ	
花陵	阪田 寛夫／著	文芸春秋	1977	913.6 サカ	
声の力 歌・語り・子ども	河合 隼雄[ほか]／著	岩波書店	2002	767.0 コ	

第7回 収監の作家・文化人 —中野刑務所1910～1983—

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
貧乏物語	河上 肇／著	新日本出版社	2008	331.6 カ	
自叙伝 1	河上 肇／著	岩波書店	1996	289.1 カ	
人生論ノート	三木 清／著	PHP研究所	2009	121.6 ミ	
現代日本思想大系 33 三木清	三木 清／著	筑摩書房	1977	081 ゲ	
蟹工船 一九二八・三・一五 改版	小林 多喜二／著	岩波書店	2003	913.6 コバ	
小林多喜二全集 第1巻 小説	小林 多喜二／著	新日本出版社	1982	918.68 コバ	
壺井繁治全集 第1巻	壺井 繁治／著	青磁社	1988	918.68 ツボ	
中野重治の画帖	中野 重治／著	新潮社	1995	723.1 ナ	
中野重治詩集	中野 重治／著	思潮社	1988	911.56 ナ	
亀井勝一郎	亀井 勝一郎／著	春秋社	1984	180.4 カ	
思想との対話 4 信仰と美の誘惑	亀井 勝一郎／著	講談社	1967	081 シ	
幻視の詩学 わたしのなかの詩と詩人	埴谷 雄高／著	思潮社	2005	902.1 ハ	
影絵の時代	埴谷 雄高／著	河出書房新社	1997	910.268 ハニ	
農的幸福論 藤本敏夫からの遺言	藤本 敏夫／著	家の光協会	2002	610.4 フ	
希望宣言 日本の「風と土」をとりもどす「無農業政治」への道	藤本 敏夫／著	ライトプレス出版社	1992	610.4 フ	
ロシア革命運動の曙	荒畑 寒村／著	岩波書店	1978	238 ア	
ザ・大杉栄 大杉栄全一冊	大杉 栄／著	第三書館	1986	308 オ	
昭和十年代文学の立場 窪川鶴次郎一巻本選集	窪川 鶴次郎／著	河出書房新社	1973	914.6 クボ	
日本共産党史覚え書	志賀 義雄／著	田畑書店	1978	315.1 シ	
徳田球一全集 第1巻	徳田 球一／著	五月書房	1985	315.1 ト	
図書館運動五十年 私立図書館に拠って	浪江 虔／著	日本図書館協会	1981	010.2 ナ	
風雪のあゆみ 1	野坂 参三／著	新日本出版社	1975	289.1 ノ	
なすの夜ばなし	土方 与志／著	影書房	1998	770.4 ヒ	
ある弁護士の生涯 布施辰治	布施 柑治／著	岩波書店	1993	289.1 フ	
編集と著作権	美作 太郎／著	日本エディタースクール出版部	1988	021.2 ミ	
グラフィックの仕事	村山 知義／著	本の泉社	2001	727.0 ム	
社会主義運動半生記	山辺 健太郎／著	岩波書店	1976	309.0 ヤ	

第13回中野区ゆかりの著作者紹介展示 ゆかり展示回顧録 ～中野の偉人・文化人ハイライト～ ブックリスト

第8回 棟方志功と中野 一大和し美しー

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
棟方志功作品集 富山福光疎開時代	棟方 志功／著	東方出版	2010	733.0 ム	
歌々板画巻	棟方 志功／著	中央公論新社	2004	733.0 ム	
板極道	棟方 志功／著	中央公論新社	2003	732.1 ム	
棟方志功	棟方 志功／著	新潮社	1998	733.0 ム	
板散華	棟方 志功／著	講談社	1996	730.4 ハ	
名著複刻日本児童文学館名作選 [24] おじいさんのランプ	新見 南吉／著	ほるぷ出版	1984	918	メ
漱石文学全集 7	夏目 漱石／著	集英社	1983	918.68 ナツ	
海のオルゴール 子にささげる愛と詩	竹内 てるよ／著	家の光協会	1977	913.6 タケ	
女拓	田村 泰次郎／著	中央公論社	1964	913.6 タム	
瘋癲老人日記	谷崎 潤一郎／著	中央公論社	1962	913.6 タニ	
柄錦一代	春日野 清隆／著	中央公論社	1961	788.1 カ	

第9回 谷戸に文化村があったころ 探偵作家松本泰・松本恵子と文士たち

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
松本泰探偵小説選 1	松本 泰／著	論創社	2004	913.6 マツ	
松本泰探偵小説選 2	松本 泰／著	論創社	2004	913.6 マツ	
「探偵文芸」傑作選	ミステリー文学資料館／編	光文社	2001	913.68 タ	
松本恵子探偵小説選	松本 恵子／著	論創社	2004	913.6 マツ	
妖異百物語 第2夜	鮎川 哲也／編	出版芸術社	1997	913.68 ヨ	
日本の名随筆 3 猫	内田 百閒／[ほか]著	作品社	1989	914.68 ニ	
アクロイド殺し	アガサ・クリスティ／著	早川書房	1975	933 クリ	
青列車殺人事件	アガサ・クリスティ／著	角川書店	1974	933 クリ	
若草物語 上巻	オールcott／著	新潮社	1962	933 オル	
若草物語 下巻	オールcott／著	新潮社	1962	933 オル	
札幌農学校 日本近代精神の源流:復刻版	蝦名 賢造／著	「札幌農学校」復刻刊行会	2011	377.3 エ	
野尻抱影の本 1 星空のロマンス	野尻 抱影／著	筑摩書房	1989	918.68 ノジ	
野尻抱影の本 2 星の文学誌	野尻 抱影／著	筑摩書房	1989	918.68 ノジ	
野尻抱影の本 3 山で見た星	野尻 抱影／著	筑摩書房	1989	918.68 ノジ	
野尻抱影の本 4 ロンドン怪盗伝	野尻 抱影／著	筑摩書房	1989	918.68 ノジ	
作家の自伝 91 大仏次郎	大仏 次郎／著	日本図書センター	1999	910.268 オサ	
猫のいる日々	大仏 次郎／著	徳間書店	1994	914.6 オサ	
社会的近代文芸	馬場 孤蝶／著	日本図書センター	1992	904 ハ	
探偵小説四十年	江戸川 乱歩／著	沖積舎	1989	910.26 エ	
貼雑年譜	江戸川 乱歩／著	講談社	1989	910.268 エド	
平野威馬雄二十世紀	平野 威馬雄／著	たあぶる館出版	1980	914.6 ヒラ	
アウトロウ半歴史	平野 威馬雄／著	話の特集	1978	910.26 ヒ	
静かな奇譚 長谷川湊二郎画文集	長谷川 湊二郎／著	求龍堂	2010	723.1 ハ	
怪奇の創造 城昌幸傑作選	城 昌幸／著	有楽出版社	1982	913.6 ジョ	
のすたるじあ	城 昌幸／著	牧神社	1976	913.6 ジョ	
芸術家の独創	田河 水泡／著	日本経済新聞出版社	2008	702.1 ゲ	
のらくろ一代記 田河水泡自叙伝	田河 水泡／著	講談社	1991	726.1 タ	
学生との対話	小林 秀雄／著	新潮社	2014	914.6 コバ	
無私の精神	小林 秀雄／著	文芸春秋	1986	914.6 コバ	

第10回 異聖歌と新見南吉—友情と名作を育んだ上高田—

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
雪と驢馬 童話集	異 聖歌／著	大空社	1997	911.58 タ	禁帯
せみを鳴かせて 新版	異 聖歌／著	大日本図書	1990	911 タ	
異聖歌の詩と生涯 ふるさとほ子供の心	内城 弘隆／著	ツワンライフ(印刷・製本)	2007	911.58 タ	
名作童話・新美南吉30選	新美 南吉／著	春陽堂書店	2009	913.6 ニイ	
花をうめる	新美 南吉／著	小峰書店	2004	913 ニ	
新美南吉童話集	新美 南吉／著	岩波書店	1996	913.6 ニイ	
新美南吉 <ごんぎつね><手袋を買いに> そしてくんでんむしのかなしみ—悲哀と愛の童話作家	保坂 重政／著	平凡社	2013	910.268 ニイ	
近代作家研究叢書 141 新美南吉十七歳の作品日記	長谷川 泉／著	日本図書センター	1993	910.26 タ	禁帯
赤い鳥名作童話 10 ごんぎつね・張紅倫	赤い鳥の会／編	小峰書店	1986	913 ニ	
赤い鳥 第12巻 第4号 大正13年4月号	鈴木 三重吉／主幹	日本近代文学館	1981	918.8 A29	
赤い鳥 第13巻 第1号 大正13年7月号	鈴木 三重吉／主幹	日本近代文学館	1981	918.8 A29	
赤い鳥 第15巻 第4号 大正14年10月号	鈴木 三重吉／主幹	日本近代文学館	1981	918.8 A29	

第11回 古木鐵太郎の文学歩歩

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
紅いノート	古木 鐵太郎／著	白河書院	2005	913.6 コ	禁帯
古木鐵太郎全集 第1巻	古木 鐵太郎／著	『古木鐵太郎全集』刊行会	1988	918.68 コキ	禁帯
古木鐵太郎全集 第2巻	古木 鐵太郎／著	『古木鐵太郎全集』刊行会	1988	918.68 コキ	禁帯
古木鐵太郎全集 第3巻	古木 鐵太郎／著	『古木鐵太郎全集』刊行会	1988	918.68 コキ	禁帯
古木鐵太郎全集 別巻	古木 鐵太郎／著	『古木鐵太郎全集』刊行会	1992	918.68 コキ	禁帯
仲秋	古木 鐵太郎／著	古木春哉	1982	913.6 コ	禁帯
文芸随想	古木 鐵太郎／著	古木春哉	1982	914.6 コ	禁帯
今昔物語 母と子の古典	古木 鐵太郎／著	白川書院	1977	913 コ	
葉桜	古木 鐵太郎／著	皆美社	1972	913.6 コ	禁帯
大正の作家	古木 鐵太郎／著	桜楓社	1967	910.26 コ	禁帯
折舟	古木 鐵太郎／著	校倉書房	1966	913.6 コ	禁帯
新薩摩学 11 郷愁の文学者 古木鐵太郎作品集	鹿児島純心女子大学 国際文化研究センター／編	南方新社	2015	910.268 コキ	禁帯
現代日本文学大系 48 瀧井孝作 網野菊 藤枝静男集	瀧井孝作／[ほか]著	筑摩書房	1979	918.6 ゲ	

第13回中野区ゆかりの著作者紹介展示 ゆかり展示回顧録 ～中野の偉人・文化人ハイライト～ ブックリスト

第12回 異彩の作家 香山滋 ～古代・浪漫・奇譚～

書名	著者名	出版者名	出版年	請求記号	禁帯
ゴジラ	香山 滋／著	筑摩書房	2004	913.6 カヤ	
海から来た妖精 香山滋代表短篇集 上	香山 滋／著	沖積舎	2012	913.6 カヤ	禁帯
妖蝶記 香山滋代表短篇集 下	香山 滋／著	沖積舎	2012	913.6 カヤ	禁帯
香山滋全集 1 海鰻荘奇談	香山 滋／著	三一書房	1993	918.68 カヤ	
香山滋全集 7 怪獣ゴジラ	香山 滋／著	三一書房	1994	918.68 カヤ	
香山滋全集 別 評論・年譜他	香山 滋／著	三一書房	1997	918.68 カヤ	禁帯
怪獣総進撃	香山 滋／著	出版芸術社	1993	913.68 カ	
蜥蜴夫人	香山 滋／著	国書刊行会	1985	913.6 カヤ	
オラン・ベンデクの復讐	香山 滋／著	社会思想社	1977	913.6 カヤ	
ソロモンの桃	香山 滋／著	社会思想社	1977	913.6 カヤ	
もだんミステリーワールド 6 香山滋集	香山 滋／著	リブリオ出版	1998	913.68 モ	
香山滋名作選 総解説・書誌 復刻版	香山 滋／著	国書刊行会	1985	910.268 カヤ	禁帯



中野区立中央図書館企画 第13回中野区ゆかりの著作者紹介展示

## ゆかり展示回顧録

### ～中野の偉人・文化人ハイライト～

発行年月日 2017年3月31日

編集・発行 中野区立中央図書館

印刷番号 28指中教函中第393号

所在地 〒164-0001 東京都中野区中野2丁目9番7号

TEL 03-5340-5070 FAX 03-5340-5090



中野区立図書館

<http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>